

現在進行形が持ち味

放送中を示す「ON AIR」の夕方時間帯。制作現場を「R」ラングがとると、緊張のぞいてみた。

まずは取材段階。カメラマンはさまざまな角度から撮影すること心掛ける。食事なおいしそうな映像をアップにしたり引いたりして撮ることで、視聴者に分かりやすく届けることが目的だ。記者は取材でマイクを向ける時、相手の緊張をいかに和らげさせるかが腕の見せどころ。そのニュースに沿った声を拾えることが重要になる。

本社は番組の構成を決め、放送時間までにカメラマンが撮影した映像を編集する。放送時間が近づくと慌た

め、順番に原稿を重ねていく。開始10分前。ようやくスタジオにアナウンサーが入った。身なりを整えるだけで、リハーサルは必要最低限。「台本があるわけではないから」と稲木部長は指摘する。大きな事件や事故が舞い込めば、放送時間内にニュースを差し替える。「テレビ報道の持ち味で、面白みもあるのは現在進行形のニュースを扱えること。放送時間内に正しい情報を届けられるのが大事」。説得力のある言葉に思わずうなずいた。

(谷出知謙)

丁寧さなど基本大事に

アナウンサー 伊藤裕樹さん(58)



14年間、平日のニュース番組を担当しています。しっかり正しく丁寧に伝えることを第一に、かまわない、間違えないなど基本的なことを大事にしています。この仕事の面白みは毎日違うものを扱えること。飽きないですし、大きなニュースもあってやりがいがあります。60歳までニュースを読めたらいいなあ、と思います。

スタジオに隣接する副調整室で、番組の進行に合わせ事前に準備されたテロップや映像などの挿入に追われる担当者



本番を前に、ニュース原稿に目を通す伊藤アナウンサー



「おじゃまっテレ ワイド&ニュース」の本番前に、緊張感漂うスタジオで「ニュース原稿」を再確認するアナウンサーの伊藤裕樹さん(奥左)と松田佳恵さん(いずれも山田陽撮影)



速報にも対応